

ショートコメント vol.56 (2016年6月27日)

テーマ：盛り上がり欠けるリオオリンピックへの期待感
 ～景気停滞期に迎える五輪。状況としては北京五輪前に近い～

●五輪直前には欠ける盛り上がり

8月のリオ五輪開催まで、もう2か月を切っている。

ただし、いつもの五輪前に比べると、心なしか盛り上がりが少ないように感じられる。関連業界にとって、五輪は4年に一度の大きなビジネスチャンスである。家電の新製品が大々的にPRされるなど、従来はもう少し動きがあったように思う。

それは景気ウォッチャー調査の結果にも表れている。直近の5月調査については、先行き判断の対象が7～8月であり、ちょうど五輪の時期と重なる。色々な業界から期待の声が上がってもよいはずであるが、関連するコメントは少なく、盛り上がり欠ける印象がぬぐえない。

●過去の五輪前との比較

関連コメント（先行き判断）の件数を、過去の五輪前と比べるとよく分かる（図表1）。回を追うごとにコメントが減少し、今回は2004年のアテネ五輪のほぼ半数にとどまっている。

また、コメントの内容にも特徴がみられる。

五輪関連のコメントは、「テレビの購入が増える」といったポジティブなものから、「自宅でテレビ観戦の影響で外出が減る」といったネガティブなものまで多岐にわたる。その中から、期待を示すものだけを取り上げ、さらに、家電関連とそれ以外（非家電）とを分類すると、図表2のようになる。

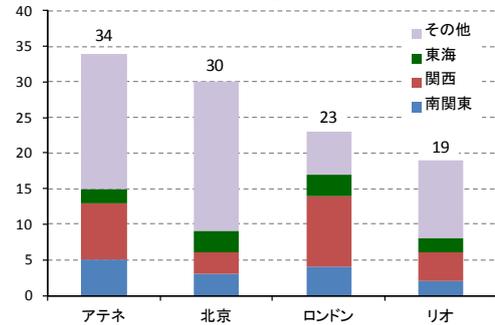
今回は大半が「テレビやDVDレコーダーの購入が増える」といった家電関連となっており、非家電コメントは数件にとどまる。図表をみると、この傾向は2008年の北京五輪にもみられる。

これと対照的なのが、前回（2012年）のロンドン五輪である。少し前に地デジ放送への切り替えがあり、テレビの需要が先食いされた一方、非家電コメントは百貨店から衣料品専門店、レストランに至るまで、非常に多岐にわたった。

●景気状況は北京五輪前に近い

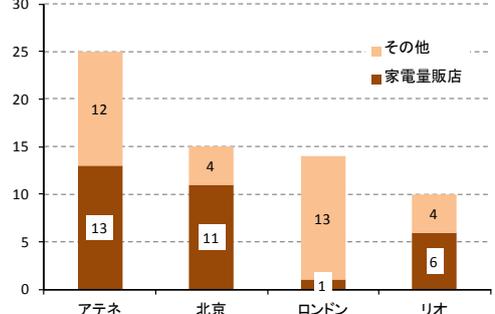
家電／非家電コメントと、景気との関係性を考えた場合、家電については、特にテレビの買い替えサイクルが五輪の開催と重なっていることもあり、ある意味で

【図表1】 五輪開催年の景気ウォッチャー調査・5月調査における「五輪関連コメント」件数



※コメントは先行き判断
 (出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」をもとに、リそな総研作成

【図表2】 五輪開催年の景気ウォッチャー調査・5月調査における「五輪関連コメント(期待感)」件数



※コメントは先行き判断
 (出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」をもとに、リそな総研作成

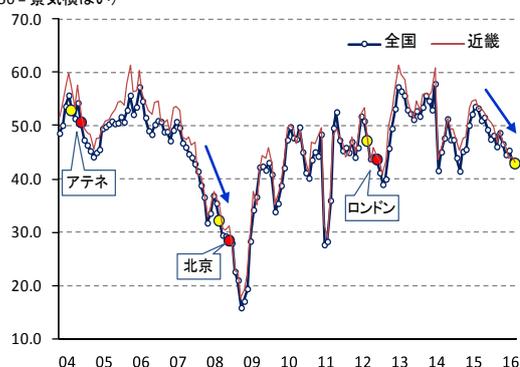
※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

底堅いとみられる。その一方、外食や雑貨購入などの非家電は、必ずしもそうとはいえない。その時の個人消費の趨勢や消費マインドに左右されやすいことから、非家電の動向と景気の連動性は比較的高いといえよう。

確かに、非家電があまり盛り上がらなかった北京五輪の開催の開催時期をみると、ちょうど「いざなみ景気」終了後の景気後退期に当たる。景気ウォッチャー調査の景気判断にも、当時の状況はよく表れている（図表3）。

今回も、昨年12月をピークに街角景気は明らかに下降線をたどっており、北京五輪に近い雰囲気はある。それに加えて、今回はブラジルの政情不安もあり、現地からのニュースは五輪を控えた華やかなものばかりではない。せつかくの4年の一度の五輪ではあるが、盛り上がり切らない状況が続く可能性はあろう。

【図表3】
景気ウォッチャー調査・現状判断DIの推移
(50=景気横ばい)



※図中の赤い点は五輪開催月、黄色い点は5月調査
(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

本件照会先: 大阪本社 荒木秀之
TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。